

WITH YOU

保険情報ペーパー「ウィズ・ユー」

年間15万件超える自転車事故！

歩行者との事故増える ルール守り安全な利用を

健康、環境への関心の高まりから、通勤などにも自転車を利用する人が増えています。一方で、街を歩いていて、猛スピードで突進してくる自転車や、歩行者の間をすり抜けていく自転車に、ヒヤリとさせられた経験のある方も多いのではないのでしょうか。

警察庁統計では、平成22年に起きた自転車に関連した交通事故の件数は15万1,626件で、事故全体の20.9%を占めています。事故の相手では、自動車は12万7,419件で8割以上を占めています。ただ、10年前に比べ、自動車との事故は15.3%減っているのに対し、歩行者との事故は1.51倍の2,760件、自転車同士の事故も

1.62倍の3,796件となっています。また、自転車乗用中の死傷者数は15万1,631人（うち死者658人）にのぼり、自動車乗用中の次に多い人数です。しかも、自転車乗用中に死傷した人のうち、ルール違反があった割合は65.2%あり、死亡事故では71.5%とさらに高くなっています。

自転車はだれでも気軽に利用できる身近な乗り物ですが、道路交通法では車両の一種（軽車両）とされ、自動車やバイクと同じようなルールが定められています。法律違反をして事故を起こすと、刑事上の責任が問われます。相手にケガを負わせた場合は、民事上の損害賠償責任も発生します。被害の大きさによっては、数千万円の賠償金を支払わなくてはならない場合もあり、未



成年といえども責任を免れることはできません。

利用する場合は、必ず「自転車は車道が原則、歩道は例外」「車道は左側を通行」「歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行」「安全ルールを守る」「子どもはヘルメットを着用」を実行するようにしましょう。そして、お子様を事故の危険から守るだけでなく、賠償事故の加害者にしないためにも、家庭内で安全な自転車の乗り方について、よく話し合うようにしてください。

過去10年間の土砂災害平均発生件数 年間約1,000件

土砂災害危険箇所が全国に52万箇所

ふだんからの準備が大切 土砂災害警戒情報に注意

今年も台風や集中豪雨による被害が各地で数多く発生しています。大雨の際は、河川の氾濫、洪水、浸水だけでなく、がけ崩れや土石流、地すべりなどの「土砂災害」にも注意が必要です。また、地震の後も発生危険が高まります。傾斜が急な山が多く、台風や地震などの多い日本では、その地形的・気象的な条件によって、土砂災害が発生しやすい国土環境にあります。

国土交通省の統計によると、平成22年に発生した土砂災害は1,128件あり、ほとんどの都道府県で発生しています。過去10年間の平均発生件数は、年間およそ1,000件となっています。

土砂災害への計画的な対策や警戒避難体制の整備を進めるため、発生する危険性があり、人家などに被害を及ぼすおそれのある地区を把握するための全国調査が定期的に行われています。その「土砂災害危険箇所」は、日本全国で約52万箇所もあります。ご自

分の家が土砂災害危険箇所にあるかどうか、国土交通省砂防部のホームページ(http://www.mlit.go.jp/river/sabo/link_dosya_kiken.html)などで確認できます。また、詳しくは、市町村役場に直接問い合わせるようにしてください。

そして、雨が降り出したら、「土砂災害警戒情報」に注意しましょう。土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生危険度が高まったときに、市町村長が避難勧告などを発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。もし、住んでいる地域で土砂災害警戒情報が発表された場合は、早めに近くの避難場所など、安全な場所に避難するようにしてください。

その際、自治体が作成しているハザードマップなどで、事前に避難場所や避難経路、周辺の危険な場所などを把握しておけば、慌てずに行動することができます。土砂災害に限らず、自然災害から身を守るためには、ふだんからの準備が何より大切です。

全国の土砂災害発生件数と被害状況 国土交通省統計

		平成21年	平成22年
発生件数	土石流	149件	234件
	地すべり	106件	127件
	がけ崩れ	803件	767件
	合計	1,058件	1,128件
被害状況	死者・行方不明	22人	11人
	人家全壊	24戸	40戸
	人家半壊	26戸	35戸
	人家一部損壊	215戸	222戸

保険情報サービス株式会社

〒120-0005

東京都足立区綾瀬3-16-4とうしんビル3F

TEL03-5682-7070 FAX03-5682-7071